平成26年11月28日

平成２６年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２６年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成26年4月22日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	２０人	国語Ｂ	２０人
②	算数Ａ	２０人	算数Ｂ	２０人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

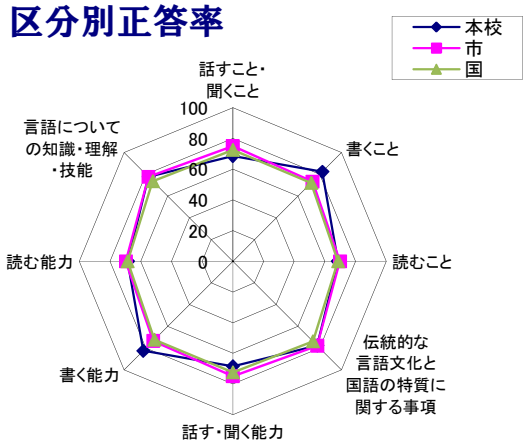
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原北小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

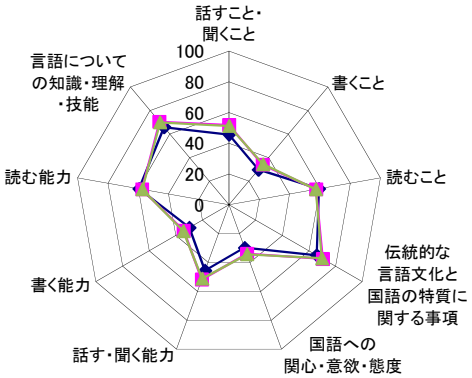
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	68.4	74.9	72.4
	書くこと	82.5	73.4	72.2
	読むこと	68.4	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.6	77.8	73.7
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	68.4	74.9	72.4
	書く能力	82.5	73.4	72.2
	読む能力	68.4	69.7	68.5
	言語についての知識･理解･技能	77.6	77.8	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	45.6	51.9	51.2
	書くこと	29.8	34.0	34.4
	読むこと	59.4	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.8	70.5	69.8
観点	国語への関心･意欲･態度	29.8	34.0	34.4
	話す･聞く能力	45.6	51.9	51.2
	書く能力	29.8	34.0	34.4
	読む能力	59.4	57.5	57.3
	言語についての知識･理解･技能	65.8	70.5	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの　●課題が見られるもの

○「国語の勉強は大切だと思うか」「国語の授業で学習したことは，将来，社会に出た時に役立つと思うか」かの質問では約80％の児童が肯定的な回答をしており，国語を学ぶ必要性について認識している児童が多い。
●「国語の勉強は好きですか」「読書は好きですか」「国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」の質問では，肯定的な回答の割合が市の平均より低い。特に「国語の授業で目的に応じて資料を読み，自分の考えを話したり，書いたりしていますか」の肯定的な回答は市の平均より大幅に低い。国語学習の大切さは理解しているが，自ら進んで本を読んだり，表現したりすることへの意欲が持てない児童が見られる。

★指導の工夫と改善

○良好なもの　●課題が見られるもの

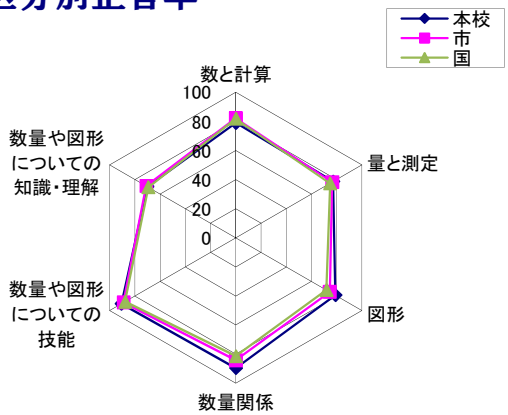
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○B　領域の「討論会における他者への質問のねらいとして適切なものを選択する」設問の正答率は全国平均より高い。質問の意図を正しく捉えることに一定の成果が見られる。 ●A　領域の「話合いの記録の仕方の仕方として適切なものを選択する」設問の正答率は全国平均を下回っている。話合いの論点に基づいて情報を関係付けることに課題が見られる。	･話し合いなどにおいて，話の趣旨や要点を適宜確認しながら論点に合った話合いの仕方を指導することが大切である。 ･朝のスピーチなどの活動を活用し，相手の言いたいことを正確に捉えられるよう，メモの活用などを日常的に指導し，話す･聞く力を育むことが大切である。
書くこと	○A　領域の平均正答率は，市の平均よりも高い。特に情景描写の効果を捉えることに一定の成果が見られる。 ●B　領域の平均正答率は，市の平均を下回っている。特に，立場を明確にして質問や意見を述べることと，二つの詩を比べて読み，自分の考えを決められた字数で書くことに課題が見られる。	･作文指導等において，自分の意見や考えを明確にしてから書かせるようにすることが大切である。意味のつながりを考えて書くとともに，複数の内容を関係付けながら考えを書くよう指導する。また，句読点やかぎなどの使い方を正しく指導することも大切である。日記指導などにおいても，テーマを決めて書いたり，字数制限などを設けて取り組ませたりして，条件付きの文章を書く力を育む。
読むこと	○B　領域の平均正答率は，市平均より高い。特に，表現の仕方として適切なものを選択する設問の正答率は全国平均を大幅に上回っている。 ●物語の一部に入る適切な人物の名前を書く設問の正答率は，全国平均を下回っている。登場人物の相互関係をとらえることに課題が見られる。	･読解能力を育むために，叙述に即した読みの指導を行うこと，多様な文章に触れられるよう，読書活動の充実を図ることが大切である。 ･複数の文章等を比較して読む際は文章の構成，表現，書き方などの内容や作者の意図を読み取ることが必要となる。作者の意図を分析できるような学習方法を指導するとともに，文章の要点の読み取りを指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○A　領域の平均正答率は，全国平均より高い。学年別漢字配当表に示されている漢字の読み書きに一定の成果が見られる。 ●B　領域の平均正答率は市平均を下回っている。擬声語など語句の表す意味の理解とその正確な使用に課題が見られる。	･学習した額を確実に定着させるために，習得した語句を文章の中で進んで適切に使うよう，日常的に確認させながら継続的に指導する。また，意味の捉え方の難しい語句は，読むことや書くことの能力の育成と関係が深いので，それぞれの意味をはっきりさせ，適切な使い方を指導することが大切である。

宇都宮市立清原北小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

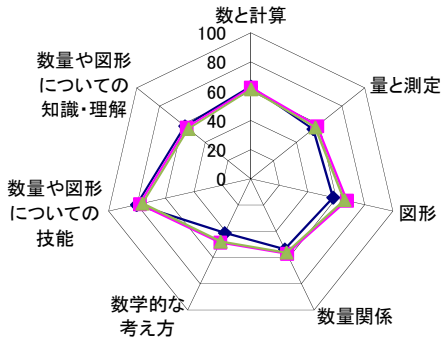
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	78.9	82.2	81.8
	量と測定	77.2	76.4	74.8
	図形	78.9	74.5	71.8
	数量関係	89.5	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	90.8	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	70.2	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	63.2	62.6	61.3
	量と測定	54.7	58.0	56.5
	図形	57.9	67.5	65.7
	数量関係	53.7	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	41.2	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	80.3	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	57.9	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの　●課題が見られるもの

○「算数の勉強は大切だと思うか」「算数の授業で学習したことは，将来，社会に出た時に役立つと思うか」かの質問では約90％の児童が肯定的な回答をしており，算数を学ぶ必要性について認識している児童が多い。
●「算数の問題の解き方が分からないときには諦めずにいろいろな方法を考えていますか」の肯定的な回答の割合は60％で市の平均より大幅に低い。算数学習の大切さは理解しているが，根気よく問題を解いたり，算数で学んだことを生活で生かしたりする意欲が十分でない児童が見られる。

★指導の工夫と改善

○良好なもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○B　領域の平均正答率は，市の平均よりも高い。特に，示された場面から計算の結果の見通しをもち(2位数)×(1位数)の筆算をするの正答率は100％で成果が見られる。 ●A　領域の平均正答率は，市の平均を下回っている。特に，基準量，割合，比較量を表す図の理解と小数の乗除の意味の理解に課題が見られる。	・数量の関係を捉えることができるよう，テープ図などを活用しながら，比較量，基準量，割合を把握し，演算決定と立式をする力を育みたい。 ・商が小数になる除法について計算方法を確認し，適切に処理できるようにする。単位量当たりの大きさが，何を意味するのかを理解できるように復習をする。
量と測定	○A　領域の平均正答率は，市の平均よりも高い。特に，二つの数量の関係について，単位量あたりの大きさを調べる場面と図とを関連図けることに一定の成果が見られる。 ●B　領域の平均正答率は，市の平均を下回っている。特に，示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し，その理由を記述することに課題が見られる。	・判断の理由について，筋道を立て，根拠を明確にして記述する力を育てるには，何が根拠として必要になるか，解決の見通しを明確にしてから説明を書き始めるように指導することが大切である。また，見直しの観点を示したうえで，全員で説明を振り返えったり，友達と相互評価する活動を取り入れたい。
図形	○A　領域の平均正答率は，市の平均よりも高い。特に，立体図形の見取図を読み取ることに一定の成果が見られる。 ●B　領域の平均正答率は，市の平均を下回っている。特に，示された条件に従って図形の敷き詰め方を考えることに課題が見られる。	・作図の学習においては，点を打つ場所によってできる図の形の見通しを立てる活動を取り入れながら作図に取り組ませたい。さらに，実物を活用して考えたり，自分で見取図や展開図を描いたりできるよう，操作活動を繰り返し指導することで図形の特徴を理解できるようにしたい。
数量関係	○A　領域の平均正答率は，市の平均よりも高い。特に，四則混合の式の表現処理と意味の理解に一定の成果が見られる。 ●B　領域の平均正答率は，市の平均を下回っている。特に，最大値とグラフの目盛の関係の理解に課題が見られる。	・グラフのかき方では，1目盛りあたりの大きさや目盛りの数を検討する必要があることを実感させるため，方眼紙を活用して実際に目盛りを作成する活動を繰り返し指導することが大切である。

宇都宮市立清原北小学校第６学年児童質問紙調査

★傾向　　**〇良好なもの　●課題が見られるもの**

〇「いじめはどんなことが理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定的回答は100％である。児童の人権意識が育っていることを示している。
〇「自分には，よいところがあると思いますか」「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では，肯定的回答が全国平均よりも高く，教師との信頼関係の上に児童の自尊感情が育っていることを示している。
〇「普段，1日当たりどれくらいの時間，テレビゲームをしますか」では，1時間未満の回答が市の平均より高く，上回りが大きい。KASAでの活動などにより節度をもって，放課後等の時間を過ごしていることがうかがえる。
〇「朝食を毎日食べていますか」では肯定的回答が100％である。児童に基本的な生活習慣が身に付いていることがうかがえる。
●「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「家で，学校の授業の復習をしていますか」の肯定的回答は市平均を大幅に下回っている。これは本校の実態として，放課後KASAで過ごす時間が長く，学習もKASAで行う児童が多いため，KASAでの学習を家庭での学習とは捉えていないことが推測される。
●「新聞を読んでいますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」では市平均を下回っている。地域や社会についての関心を新聞を読むことにつなげる手立てを講じる必要があることを示している。